

卷頭の辞	林珠雪	3
<特集>現代表象の他者と自己 —台湾・日本の中の台湾—		
特集趣旨		7
研究者による台湾修学旅行支援の試み —SNET 台湾と私の偶然—	赤松美和子	9
【投稿論文】 來自過去の誘惑—論《還願》現象引發的“台湾”想像 蕭幸君		20
津島佑子『あまりに野蛮な』における台湾表象から、2017 年日台作家会議に参加する 日台作家の同時性を考える 謝惠貞		43
【投稿論文】越境するディストピア —伊格言『グラウンド・ゼロ 台湾第四原発事故』における原発表象— 倉本知明		52
「国籍」と「選挙」 —邱永漢 1980 年参院選出馬の意味と意義— 和泉司		73
台湾イメージ、受け取る側と伝える側 —「台湾文学」教育の実践を通して— 橋本恭子		106

探偵小説にみる台湾表象 —『少女の友』掲載の福田ナミ子「揺(うご)く仏像」をめぐって— 宮内淳子		115
「親日台湾」イメージと国語教育美談 —日本統治時代の美談集から読む現代の台湾表象— 伊藤龍平		136
台湾妖怪ブームにおける台湾／妖怪の表象 —台湾妖怪関連の出版物に注目して— 榊祐一		152
台湾の大学生における「おもてなし」概念の受容に関する一考察 —認知度調査とインタビューを通して— 林蔚榕		176
【投稿論文】「アニメ・マンガの日本語」による日本語学習への気づき —学習者にとっての「楽しさ」を中心に— 許均瑞		196
<投稿論文>		
高等教育における領域間の提携と実践 —台日農食育交流の実践教育を中心に— 林珠雪		224
<活動報告>		
2018 年關西機場假新聞事件 陳絢耀、許慈安		241

我的漫畫！過去與現在！

洪宜婷

245

〈研究ノート〉

徳富蘆花原著林紓訳『不如帰』試訳(二)

北川修一・陳瑾儀・練怡成・林章君

252

投稿規程・執筆要項

264

〈特集〉現代表象の他者と自己

—台湾・日本の中の台湾—

特集趣旨

本特集は、現代社会における「台湾」をめぐる表象のあり方を探求するものである。台湾および日本では「台湾」についてどのような表象が形作られ、それはどのような社会的・文化的脈絡と機能を持ち、さらには歴史的にどのように位置づけられるものなのだろうか。

台湾では、戒厳令が解かれたことをひとつの大きなきっかけとして、植民地時代の研究がようやく日の目を見るようになった。タブーだったことについても人々が少しずつ口を開くようになり、埋没されがちな個々の物語にもやがて耳を傾けてくれる人が出てきた。さらに2000年以降、例えば映画『海角七号』(2008)が、織り込まれた植民地時代の出来事を「過去」として映し、その物語に「いま」の台湾をよりフォーカスしたやり方は、ある意味でいまを生きようとする方向性を提示したものである。

『看見台湾』(2013)に至っては、空撮で台湾の全貌を捉えた記録映画がなぜこれほどまで台湾の観客の心をも捉えたか。やはり、少なからぬ台湾の観客の心が奪われたのは、自分たちが住まう場所への関心が映像の力によって喚起されたからではなかったか。そこにも台湾の「いま」を知ろうとする何かが見れているのかもしれない。また、ひまわり運動におけるインディーズバンドの活躍が象徴するように、若手の创作者たちの手によって世に送りだされた作品の多くには、明らかに台湾をめぐる自己表象の変化が見られると思われる。

一方、台湾における戒厳令解除と民主化の進行にともない、日本でも、それまでになかった台湾表象が諸メディアで現れるようになった。1989年の映画『悲情城市』が翌年に日本で公開され、台湾の近現代史について、人々に考え直すきっかけをあたえた。さらに1994年には『台湾万葉集』が日本で出版され、戦後台湾における「日本語世代」の問題の問題を突きつけた。そして司馬遼太郎『台湾紀行』(1994)や小林よしのり『台湾論』(2000)は、さまざまな意味で物議を醸し、